令和６年度第３回大分県総合教育会議 議事要旨

【日 程】

日 時　令和６年１２月１２日（木）

開会1６時００分　 閉会１７時００分

場 所　県庁新館１４階大会議室

【出席者】

総合教育会議構成員 大分県知事　　　　　　　　　佐 藤 樹 一 郎

大分県教育長　　　　　　　　山 田 雅 文

大分県教育委員　　　　　　　岩 崎 哲 朗

大分県教育委員　　　　　　　高 橋 幹 雄

大分県教育委員　　　　　　　鈴 木 恵

【協議事項】

（１）子どもたちへのキャリア教育と県の持続的発展（県内就職）について

【発言要旨】

協議事項（１）子どもたちへのキャリア教育と県の持続的発展（県内就職）について

（要旨）

・全国的な人手不足の状況のため、県内企業だけでなく県外有名企業からの求人も非常に

多い。

・企業、学校、行政が連携し、効果的な情報発信や人材育成、就職支援に取り組む必要が

ある。

・学校側は学校で取り組んでいる内容を、企業に対してもっと効果的にアピールする必要がある。

・県内企業は給与や休暇等の福利厚生の整備に加え、若者世代の価値観に合った働き方や

企業の魅力をアピールする必要がある。

・学生は仕事で稼ぐことだけではなくて「自分の人生、余暇をどう楽しむか」とか「生活をどういうふうに過ごしていくか」ということを重視している。まずは会社が選ばれるような取り組みを行わないといけない。（鈴木委員）

・学校は授業で何を取り組んでいるかをアピールし、企業から「ここが生かせる」と思ってもらえる機会をつくり、企業と学校が繋がること、また地域と繋がることで学校への理解も深まるし、ひいては子どもたちが大分県に残るきっかけになるのでは。（鈴木委員）

・高校生にアンケートを実施し、一番多かったのが「一旦は県外に出たいが将来的には県内に戻りたい。」であった。今は全国的に人手不足なので、有名企業を含め1人当たり４０社というレベルで求人が来ており、学生にしてみれば選り取り見取りの状態。県内企業も紹介はするが、一方で大企業でチャレンジしたいということが子どもの夢であるならば、それは応援したいという現場の声もある。（山田教育長）

・教育でできることは精一杯やろうとは思うが、教育の力だけではなくて、やはり各部局それぞれがそれぞれの立場で、同じ目標に向かって力を合わせることが大事。（山田教育長）

・学生との意見交換や九州地域戦略会議で、APUの学生が大分県で就職をしたいと思っていても採用試験が日本人と同じ試験であるため、本当はもっと仕事ができるのに日本人と同じ日本語での学力が求められており就職できていないといった話があった。大分の企業より福岡の企業が先に対応を始めている。（知事）

・本日の会議ではいろんな各関係部署が集まっていただいた。商工会議所も教育委員会とだけ連携するのではなく、もっと県の関係部署と連携していきたい。（高橋委員）

・大分県の魅力はどこの地方公共団体に比べても負けない。大分県内企業の方々がそういう魅力も積極的にアピールし、企業体制がしっかりしていれば、若い方々も県内企業を就職先として考えるし、自分たちの将来に良いものだと思ってもらえると思う。（岩崎委員）

以上